

おokayama健康づくりアワード2022表彰

○ 職場部門

応募6社

	会社名	授賞理由
1	公益財団法人操風会 岡山旭東病院 (岡山市 医療・福祉 従業員数528人)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間クラブ活動の活動費を継続的に助成。現在「テニス」「野球」「バレーボール」「マラソン」の各クラブが活動中。 ・入職後1ヶ月を目処に、公認心理師によるメンタルヘルスチェックを実施。新入職員には「メンタルヘルス研修」「新人カウンセリング体験」等を開催。 ・パート及び時短職員も含む全職員が健康診断を受診しており、受診率は100%を継続。 ・職員及び家族を対象に自院の「脳ドック」「がんドック」の受診補助を行い職員のみならず家族も受診しやすい環境を整備。
2	ブリヂストンBRM株式会社 西日本事業部岡山営業所 (倉敷市 製造業・卸売業 従業員数8人)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝始業前に、喉を鍛え発声発語機能を向上させる目的で「声磨き体操」と腰痛予防を目的とした「ブリヂストン体操」を実施。 ・2025年に喫煙率を12%にする目標に向けて、卒煙プログラムやスマホで禁煙外来など、喫煙者が積極的に禁煙を目指す企画を定期的実施。喫煙率低減に向けた、部署毎の実行計画を策定し、毎月計画の進捗をフォローし、会社を挙げて活動。就業時間内禁煙を実施。 ・定期健康診断及びストレスチェックはアルバイトも含め受診率100%を継続。再検査、精密検査、要医療については、医療機関受診予定日まで100%フォロー実施。再検査、精密検査の一部項目は費用を補助。50歳以上の社員にはロコモ健診を実施。

○ 地域部門

応募10団体

	団体名	授賞理由
1	玉野市愛育委員協議会 会長：岡崎 文代	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と地域とのパイプ役である愛育委員活動の特性を活かして、健康ウォーキング大会や禁煙、受動喫煙の防止など様々な健康づくりに関する活動を長年にわたり継続。がん検診の普及啓発活動は地域住民の健康を守る活動として重点的に取り組んでいる。またアンケート調査及び研究を行い、活動の評価と見直しをし、時代に合った活動を展開。コロナ禍では感染対策を行いながら活動を継続。
2	一般社団法人備前青年会議所 理事長：松下 真也	<ul style="list-style-type: none"> ・運動する若い世代を増やすために、ウォークラリーイベントを立ち上げた。多くの市民にイベントを周知するために、YouTubeやLINEなどSNSを活用しターゲットとする若い世代に届く方法でのPRを行った。また、イベントの実施に当たっては子育て世代が楽しんで参加できるよう、歩いた距離により抽選回数が増えるガラポン抽選会を行った。また、壮年期以降の関心も高めるため、血管年齢・体組成測定や骨密度測定なども併せて実施。運動習慣の定着に向けた取組を実施。
3	真庭地域食育推進協議会 会長：片岡 貞枝	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年発足後、食育関係機関・団体が意見交換や食育活動について検討し、地域の課題解決に向けて取り組んでいる。平成29年から各団体・機関の共通の取組として「おいしいね 真庭の食材(めぐみ)で元気なからだ」をキャッチフレーズに「よく噛む」「高血圧予防」「真庭のめぐみ(野菜や乳製品)」「運動不足」の4つを掲げて活動を展開。協議会を通じて、各関係機関・団体が連携でき、それぞれの強みを活かし事業を実施。
4	公益財団法人操風会 岡山旭東病院 院長：吉岡 純二	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年から地域住民を対象とした健康づくり活動として、テーマ別に医師、看護師、栄養士、理学療法士、作業療法士など様々な医療職を公民館、地域コミュニティハウスなどに派遣して、多岐にわたるテーマでの健康講座を開催。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公民館等に集合することが少なくなったことから、それを補うため「YouTube」で自宅でもできる運動などの情報発信を実施。 ・「おokayamaマラソン」では医師、理学療法士、看護師等を派遣し、救護所の運営、参加ランナーのサポートを実施。
5	児島の健康づくりを考える会	<ul style="list-style-type: none"> ・全市として取り組んでいる、自然に健康になれる食環境の整備「くらしき3ベジプロジェクト」を児島地区の特性に応じた方法を検討して推進。運動については従来からウォーキング大会を開催し、運動の必要性を啓発してきた。平成24年からラジオ体操を進めており、令和3年には、ご当地弁での「児島版ラジオ体操第一」を完成させ、様々な方法で啓発の実施。また、健診受診の習慣化にも力を入れて取り組んでいる。